

「『教育』から見たテーマパーク産業の役割の有効性」

国際観光学科 山岡弘明

今回の論文は3年生時に株式会社ユー・エス・ジェイ(USJ)のマーケティング部と協同研究を行った「USJの教育旅行による集客戦略」の研究をもとに執筆したものです。「教育」から見てテーマパークは、どのような役割があるのか、また教育の持つ集客の有効性とは何かについて研究しました。

教育旅行とは遠足・自然教室・野外活動・体験学習・林間学校・校外学習・修学旅行などの学校団体の活動の総称です。研究は教育委員会や旅行会社および観光事業会社にヒアリング調査を行い、また、関西地区の小・中・高の各校に郵送や電話によるアンケート調査を実施し様々な角度から研究の基礎データを収集し、課題の解決に取り組みました。

さらに、ディズニーアカデミーなどの事例研究を加え、企業をターゲットにしたホスピタリティ教育やパーク内施設を教育的に活用したプログラムの提供について、「教育」による集客効果が大きいことを明らかにしました。その論拠は、広域のエリアマーケティングのポテンシャルにあります。

本論文を作成に至ったのは、テーマパークと「教育」とは真逆のものという考えでした。しかし、少子化や学校の統廃合が現実になされているとはいえ、依然として全国的に見れば学校数は多い。ゆとり教育の見直しで教育的ニーズを求める傾向が強くなる環境変化はテーマパーク事業にとってプラスではないか。大きい教育マーケットをマーケティングの視点でとらえてみたいと考えたのが論文作成の動機です。

難しいテーマでしたが諦めずにやり切れた結果で、受賞でき本当に嬉しく思っています。4月からは総合食品商社に勤めます。観光とは全く違うジャンルではありますが、今回の研究のように、きちんと計画をたて、行動を積み重ねて結果を出すことは、これからの仕事の場面にも十分活用できるはずです。

企画、組立て、実行の学習の基本をしっかりと学べたことで、社会に出てからもチャレンジする気持ちを持って働くことができると思います。